



AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学学術情報センターだより 第45号



図書館放浪記 in France



中田 友子

2015年4月から2016年3月までサバティカル(在外研究)でフランスに滞在する機会を得て、この際、以前から読みたかったラオス関係の文献をすべて読もう!と意気込んで、パリに乗り込んだが、結局、すべて読みつくすことはかなわなかった。冷静に考えれば、いくらラオスが小さな国で、フランス植民地政府の扱いも、お隣のベトナムなどと比べたら明らかに冷淡に見えるとはいえ、その文献すべてが、一人で一年で読むことのできる量に収まりきらないことは予想できたはずではあるのだが。とはいえ、一年間にパリの図書館は四館、それに南仏エクサンプロヴァンスにある公文書館で文献収集をした。

最も多くの時間を費やしたのが、受け入れ機関であったフランス極東学院(Ecole Française d'Extrême-Orient)の図書室である。パリの16区、シャイヨー宮やエッフェル塔にも近いいわゆる高級住宅街の重厚な建物の二階フロアを占めるこ



エクサンプロヴァンスの
公文書館にいた猫

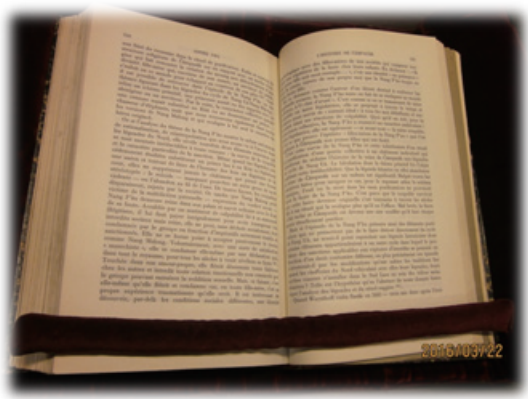
の図書室は、アジア関係の文献を、古いものだけでなく、最新の専門書や雑誌まで揃えている。最初はこんな小さな図書室ではすぐに文献を読みつくすだろうと思っていた私も、

検索していくうちに、歴史あるフランス極東学院の図書室が侮れないことがわかっていった。

この図書室の利点はその文献の豊富さだけではない。座席が見つからないという心配をする必要がないのである。大学の図書館ではこうはいかない。たとえばBULAC(Bibliothèque universitaire des langues et civilisations)という東洋言語文化研究所の図書館では、開館時間に1~2時間遅れて行こうものなら、血眼になって座席を探し回らなければならないことになる。座席を占めている学生たちの一部は、備え付けのパソコンでゲームやSNSに興じているのだからときに舌打ちもしたくなる。それに比べて極東学院の図書室は、座席数はBULACに比べてはるかに少ないが、利用者もずっと少ないため、座席がなくて困ることはない。しかもシステムが、こういっては何だが古いままで、かえてそれが使いやすかったりする。BULACも国立図書館(Bibliothèque nationale)も、本の注文はすべてインターネットのウェブ上でを行い、最低でも45分は待たないと閲覧する本にありつけない。国立図書館の旧館、リシュリユール館にいたっては、前々日までに本の予約をしないとイケない。それに対して、極東学院の図書室では手書きで申し込み用紙に記入し、10分か15分待てば、本を閲覧できる。これは図書室自体が小さく、利用者の絶対数が少ないことがその最大の理由だが、アナログのほうがよっぽど迅速なのである。静かで小ぢんまりとした空間はまた、居心地もすこぶる良かった。

ただ、良いことづくめではないことも確かである。朝9時から夕方5時までと開館時間が短く、夕方は4時45分ごろになるとバタバタと職員たちが帰り支度を始め、利用者も50分までには出ていかないといけない。しかも土日は閉館、夏休み、冬休みもあって、それぞれ1～2週間、閉館となる。さらに古い建物のせいか、補修工事を年中やっていて（ある職員によれば、工事がいつ終わるかは彼らにもわからないらしい）、ときにはそのせいで図書館が閉館になったことすらある。そういうときには、他の図書館へ行くしかない。

とはいえ、BULACも歴史ある図書館で、極東学院にない古い文献がこちらにあったりする。古くて状態が悪く、表紙がとれそうになっていたり、紙が破れそうになっている本については、特別に専用の閲覧室が設けられている。閲覧時間も午後2時から6時半までと制限があり、そこでは職員が利用者に目を光らせている。古い文献を保存しようとする気持ちは、“futon”と呼ばれる布製のクッションと、文鎮の役割を果たす別珍製の細長い紐というより柔らかい棒に象徴されている。閲覧者はこの“futon”の上に本を置き、細心の注意を払いながらページをめくり、柔らかい文鎮でページを押さえる。ちなみに、こちらの図書館は朝10時から夜8時、フロアによっては10時まで開いており、土曜日も開館している。少し長めの夏休みがあるのは、労働者の権利に敏感なフランスではいた仕方ないでしょう。



別珍製の文鎮で資料を押さえている様子

これに対して、蔵書数では圧倒的な量を誇る近代的な国立図書館（フランソワ・ミッテランというかつての大統領の名前がついている）は必ずしも使い勝手が良いと思えない。利用料がかかる、事前にネットで仮登録が必要ということだけでなく、とにかくだだっ広く、トイレへ行くにも5分は歩かないとたどり着けない。というわけで、結局、年間使用料として60ユーロ払ったにもかかわらず、数えるほどしか行かなかった。

植民地時代の公文書が納められている海外公文書館（Archives nationales d'outre-mer）で、私は10年近く前に一度、3週間ほど文献収集を行ったが、今回驚いたのは、前回の利用履歴が残っていたことだった。その時ももらった利用者カードは無効になっているだろうと思い、持参しなかったのだが、おそらく使えただろう。システムは以前とほぼ同じだったが、デジカメが普及したせいか、コピー室がほぼ閉鎖状態になっている。公文書の調査はとにかく時間がかかってやっかいだが、それに加え、紙が古くもろいため、丁寧に扱っていても、読み終わった資料の束を箱に戻すと、机の上に細かい紙片が溜まっているのを目にして不安にかられることも珍しくない。前回来たときに、資料のデータベース化を行ったという話を聞いたが、資料自体については、まさかあの膨大な量のものすべてを一枚一枚データ化したとも思えない。将来的にこの貴重な資料はどうなってしまうのだろうと、余計なお世話と知りつつ心配してしまう。

今回利用したどの図書館もテロ対策が行われており、国立図書館とBULACは入館のときに荷物検査があり、極東学院と公文書館は入館者一人一人を内部からチェックしてドアを開けていた。図書館ですらテロの脅威と無縁ではないというところに、今のフランスが置かれた現実を垣間見た気がした。

（なかた ともこ 国際関係学科教授）

失われ、忘れ去られたものを求めて

紺野 達也

蔡大鼎漢詩精選集 漏刻
樓集・欽思堂詩文集

紺野達也 訳/解説
うるま市教育委員会
2015年3月発行

図書館所蔵
N919-27

蔡大鼎『伊計村遊草』等
調査研究事業
研究成果報告書

紺野達也 他執筆
うるま市教育委員会
2015年3月発行

図書館所蔵
N919-28

皆さんは蔡大鼎（さいたいてい）という人物をご存じでしょうか。その名は中国風ですが、現在の沖縄県にあった琉球王国の士族です。琉球の最末期、日本で言えば幕末から明治の初めに生き、晩年は近代国家へと歩み始めた日本の一部となった琉球の地位の回復を目指して清国に渡り、そのまま客死したとされます。

蔡大鼎は琉球を代表する漢文学者の一人でもあります。それにもかかわらず、彼の漢詩文に関する研究は極めて低調でした。その主な理由として、琉球漢文学の研究全体が活発ではなかったこと、戦前に沖縄県内に所蔵されていた蔡大鼎の著作が太平洋戦争の激戦である沖縄戦で焼失してしまったこと、さらに蔡大鼎が琉球国内、特に沖縄本島で詠んだ漢詩文は戦後、ほとんど確認できなかったことなどが挙げられます。

実は蔡大鼎の漢詩文集のいくつかは、忘れ去られていたかのように、最近まで沖縄県外の図書館に眠っていました。2011年、私はそれらの調査を始め、そこに収録されている蔡大鼎の漢詩文はほとんどが琉球国内で作られたものであるこ

と、また彼の作った漢詩文の数が既知の分も含めて2000首以上に及ぶことなどが判明したのです。そして、複数の研究者によって今も興味深い事実が次々と明らかになっています。たとえば彼の家族や生涯については『蔡大鼎『伊計村遊草』等調査研究事業研究成果報告書』の拙論で詳しく述べています。

一方、『蔡大鼎漢詩精選集 漏刻樓集・欽思堂詩文集』は、沖縄県外でいわば“再発見”された蔡大鼎の漢詩文集のうち、沖縄戦で焼失したことで、収録作品の詳細がわからなくなっていた『漏刻樓集』『欽思堂詩文集』から「蔡大鼎の経歴と人物」「歴史と社会」「家族と交遊」「琉球の風景」に関する漢詩、さらに彼と彼の父が記した漢文数篇を選び、訓読、現代語訳、注釈等を施したものです。なお、詩の選定にあたっては、戦前、山形県米沢の伊佐早謙が編纂した琉球漢詩の詞華集「琉球文伝」所収の蔡大鼎の詩を全て入れることとしました。それはこれまでほとんど注目されなかった「琉球文伝」を評価し、伊佐早氏の業績に敬意を示したいと思ったからです。

この二冊によって、長い間失われてしまったと思われていた、また忘れ去られてもいた蔡大鼎の漢詩文の一斑を見ることができるようです。同時に、近代化、戦争、米軍統治、日本復帰などによって大きく変貌する前の、かつての琉球王国の諸相も浮かび上がってくることでしょう。

そして、蔡大鼎の漢詩文を読むことでわかるものの一つに、彼の学習の状況があります。蔡大鼎は当時、中国語、特に古典（文言。いわゆる漢文）を学び、その成果が彼の漢詩文に反映されています。それゆえに、琉球王国の歴史や文学、東アジアの漢文学に関心がある方だけではなく、外国語

を学ぶ本学の皆さんにも是非、この二冊を手にとってもらいたいと願っています。

（この たつや 中国学科准教授）



夏の図書館イベント

第6回選書ツアーを開催しました

8月10日（水曜）の午後、ジュンク堂書店三宮店にて第6回選書ツアーを行いました。今年は8名の参加者が143冊の本を選びました。初めての夏の開催でしたが、予想していたよりも多くの学生さんにご参加していただくことができ、大変良かったと思っています。

選書された分野は例年になく多岐に渡っていま

す。8名の参加者の個性が表れた結果なのでしょう。10月12日（水曜）には図書館センター長を囲んで、参加者と図書館職員によるPOP作成&茶話会が催されました。その時に作成していただいたPOPは現在閲覧室にて選書本とともに展示中です。ぜひお手に取ってご覧ください。

（須浦）



POP作成&茶話会の様子



展示の様子

たくさんのPOPと全143冊の本。

参加報告

図書館業界最大のイベント 図書館総合展に参加しました

河野 幸徳

図書館総合展は、2016年で第18回目を数える国内最大の図書館イベントです。日本全国から図書館員や出版社などの図書館関連企業のみならず、行政や教育関係者も参加します。今回は11月8日（火）～10日（木）に開催され、入場者数は31,355名となりました。

図書館総合展は主にフォーラムとブース出展で構成されています。昨年ご紹介した「図書館業界・出版界に関心をもつ学生のための展示ブースツアー」は今年も実施されましたが、今回紹介するのは「第一回全国学生協働サミット」です。

大学図書館の学生協働に関わっている学生・教職員が集い、それぞれの活動について報告し合うイベントで、神戸市外国語大学としては展示会場

内の特設コーナーで、選書ツアーやキャンパスツアー、ラーニングアドバイザーの活動を紹介するポスターを掲示し、ホームページで公開しているキャンパスツアーの動画（Short Ver.）を提供しました。10日に開催されたフォーラムでは学生協働に携わる団体（主に学生）の口頭発表があり、図書館に対する熱意が強く伝わってきました。

来年は11月7日（火）～9日（木）にパシフィコ横浜で開催予定です。図書館業界・出版界に関心のある方に、情報収集の場としてオススメです！

（この ゆきのり 図書館職員）

神戸市外国語大学 学術情報センター（図書館）の学生協働を紹介します。

選書ツアー
2016年で6回目となる学生選書ツアー。今回は8月10日にジュンク堂三宮店で実施され、8名の学生が参加し、143冊の本が選ばれました。10月12日にはセンター長を交えた茶話会が開かれ、POPを書きつつ、読書に関する話題で盛り上がりました。

キャンパスツアー
大学の広報サポーターとして、現在16名の学生が活躍しています。今年度は既に24校の高校生見学の対応を行っており、オープンキャンパスでは学生イベントの企画運営をしています（動画参照）。クイズを交えた図書館見学ツアーも高校生に大好評です。

LAは全員 2階以上対応可！！

学修支援
2014年10月から図書館内のラーニング commons で大学院生スタッフ「ラーニングアドバイザー（略称：LA）」が学修支援活動を行っています。2016年後期は、6名の大学院生がデスクに在席し、ライティング支援を中心に活動しています。

トークイベント
ラーニングアドバイザーと利用者の交流の場として、トークイベントを不定期で開催しています。現在までに、スペイン・沖縄・英詩・スペイン語・中国語をテーマとして取り上げ、LAとその研究内容を身近に感じられる機会を作っています。

広報活動
ラーニングアドバイザーによる広報活動として、①Facebook内連載「LA通信」の執筆、②おすすめ資料の展示、③パスファインダーの作成、④新入生全体オリエンテーションなどに取り組んでいます。先輩研究者として学生に寄り添った広報を行っています。



外壁工事が完了しました

7月からおよそ4ヶ月間に渡って行われていた図書館外壁工事ですが、10月上旬、無事完成の日を迎えました。ひび割れ等もなくなり、青空に映える図書館に生まれ変わりました。長期間に渡

り、音や匂い、窓の開閉等、みなさまには大変ご迷惑をおかけしました。ご理解・ご協力くださり、誠にありがとうございました。



before



after

図書館日誌 2016年7月～2016年11月



2016年

-7.31	展示「司書のおすすめD」第33回	8.16-23	図書展示、司書による書庫見学ツアー） 蔵書点検
7.1	国立国会図書館「歴史的音源 (れきおん)」配信サービス利用開始	10.1-11.26	展示「司書のおすすめD」第34回
	Newsletter No.19 発行	10.12	選書ツアー茶話会
		10.27	第5回LAトークイベント 「チャイ語カフェ」
7.4-8.3	2016年度第2回 Re ユース		10月のゼミガイダンス 1回実施
7.24/31	試験期 日曜開館（試行）		トライやるウィーク（2校3名受入）
	7月のゼミガイダンス 4回実施	11.8-9	図書館総合展「第1回全国学生協働 サミット」に参加
8.10	第6回選書ツアー	11.8-10	
8.7/21	オープンキャンパス（専攻言語の		

AD ALTIORA SEMPER 神戸市外国語大学学術情報センターだより

第45号 ISSN 0919-2336

「AD ALTIORA SEMPER」とはラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

編集・発行：神戸市外国語大学学術情報センター

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

TEL：078-794-8151 / FAX：078-797-2257

URL：http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/

2016年11月30日発行 発行責任者：センター長 太田斎

